

# ほほえみ

7月29日(月) 夏季研修 子どもが主語になる授業デザイン  
～授業を通して、より良い学級集団を育てる～  
講師 早稲田大学名誉教授 小林 宏己 先生



子どもの側に立つ授業、子どもを主語にした授業をテーマに講演して頂きました。

「子どもが活動していれば、主体的なのか?」「思考ツールを使っていれば主体的なのか?」との問題提起から始まり、教師が設定した課題と指示に従いながら「させられる学習」は、子どもが「自ら学ぶ」主体性・自律性、そして、「学び合う」協働性・信頼性の発揮は望めないということ、先生のお話を聞いたり、参加者同士で意見交換したりしながら学びました。更に、対話と話し合いとの違いなどについても具体例を挙げながら教えて頂きました。

参加者の皆さんは、小林先生の担任時代の授業の映像を見ることで、子どもの主体的な活動についての具体的なイメージをもつことができたようでした。また、教師にそのつもりはなくても結果として「させられている学習」にならないようにするために、自分の授業を振り返るきっかけや教師が与えた課題に一斉に取り組むのではなく、友だちが学んでいる姿を見ながら学び合える学級にしたいと感じた方も多かったようでした。



## 【参加者からの質問についての回答】

### ○話し合いの指導について

はじめは、聴型や話型のままで OK。徐々に型から外れていくことを容認しその型が崩れることで、その子らしさが出てくる。声の届く相手を意識し、先生ではなく仲間に伝えるように、相手を意識して話しかける、語りかけるようにする。

### ○板書について

映像の授業では、比較を通して、友だちの意見がつながるような板書をした。

### ○ノート指導について

授業と授業の間の授業としてノートを読み、全員にコメントを書く。

### 参加者の感想

- 子どもが作り上げていく授業には、教師がノートを見取り、子どもがどのようになって欲しいのかを考えて臨むことが大切だと分かりました。授業こそ、学級経営だということも良く分かりました。子どもで始まり、子どもで終わる授業をつくっていきたいです。
- 座席表を活用して、一人一人を見取り、どの子の意見を輝かせたいか、どの子の意見をつなげたいかを考えながら授業をデザインしていくことが大切だと学びました。子どもとの対話を意識した授業づくりを心がけていきたいです。
- 「子ども達が主体的に考える」ということが、今まで考えていたものがより明確になった時間でした。自分の普段の授業を振り返ると「させる」場面が多かったと反省しました。ノートのコメント等あらゆる場面で、子ども達一人一人と対話することを大切にしていこうと思いました。夏明けから自分にできることを一つずつ行い、子どもが自由に尊重し合いながら、学び合えるクラスをつくっていきたいです。